令和7年度「直方市DX人材育成事業」業務委託に係る質問に対する回答

No.	種類	ページ	概要	質問	回答
1	仕様書	P3	Awardの評価対象について	Awardにおいて評価される「事業」とは、具体的にどのような成果物を想定されていますでしょうか。職員の皆様による企画書やプランを評価するものか、あるいは実際に実装されたシステムやアプリケーション等の具体的な成果物を評価するものか、どちらを想定しておりますか。	前者です。 仕様書の「2. 事業の背景・目的（2）目的」にあるように、本事業は「デジタル技術を用いた施策を企画・立案する」ことに主眼を置いており、デジタルという手段を活用して立案した「施策（企画書やプラン）」についての評価」を想定しています。
2	仕様書	P2	CIO補佐官研修へのオブザーバー参加形式について	仕様書に記載されているCIO補佐官が実施される研修へのオブザーバー参加について、オンラインでの参加は可能でしょうか。参加形式についてご指示があればお伺いできますでしょうか。	現地での参加を想定しています。（ただし、本事業に参画いただく一部の方のオンライン参加は可能です。）
3	仕様書	P4	研修後の「課題」の位置づけと扱いについて	研修中に提示される「課題」は、研修内容の理解を深めるための宿題のような位置づけと捉えてよろしいでしょうか。もしそうである場合、第一回目の研修後や最終回の研修後における課題の扱いについて、現時点で想定されている内容をお伺いできますでしょうか。	課題の位置づけについて、その認識で問題ありません。 仕様書の「7. 事業の実施方法（5）」に、「研修を通じて、参加者が「Award」に事業を提案（提出）できるよう、必要なフォローアップを行いながら実施すること。」と記載している通り、Awardでの施策発表に向けて、研修で学んだ考え方やスキルを段階的に習得・活用できるような課題を提示いただきたいと考えています。 例えば、1回目の研修後であれば、仕様書にも研修テーマ例として挙げている、「「仮説を立てるためのデータを集約する力」の実践（深堀り）」、最終回の研修後であれば、「Awardに提出するための事業提案（企画書やプラン）のブラッシュアップ」などが考えられますが、事業の趣旨に合致するものであれば、これらの例に限定するものではありません。
4	仕様書	P4	研修で使用するデータ可視化ツールについて	本研修において、参加職員が行政課題の分析や施策立案に活用するため、業務で利用できるようなデータ可視化ツール（例：Excel、BIツール等）は提供される予定でしょうか。もし提供される、あるいは推奨されるツールがありましたら、お教えいただけますでしょうか。	研修で利用できるデータ可視化ツールについては、Excelのほか、無償で利用可能なもののうち、本市の環境で活用可能なツールについて受託者と協議の上、提供を行う予定です。 なお、現時点で推奨している特定のツールはありません。
5	仕様書	P1	職員のDXリテラシーに関する過去の実施状況について	過去に職員に対して、DXに関するリテラシーのテストやアセスメント等を実施された事例はございますでしょうか。もし実施されているようでしたら、その結果から見られる職員の皆様のDXに関する特徴や傾向について、差し支えない範囲でお教えいただけますでしょうか。	これまでに、全職員に対して実施したDXに関するリテラシーのテストやアセスメント等の事例はありません。 そのため、研修参加者の詳細なスキルレベルについては把握しておりませんが、表計算（基本的な関数を利用できる程度）、文書作成、プレゼンテーション資料作成の各ソフトを利用できるレベルと考えています。
6	評価基準	P2	評価基準における非特定の基準について	「評価基準」において、「総合得点 100」とありますが、その下の「受託候補者の特定」において「合計点数が 250 点未満となった場合は、受託候補者として非特定とする」と記載されています。複数の審査員による評価の合算が250点以上あるという解釈でよろしいでしょうか。審査員の人数が決まっていたらご教示ください。	お見込みのとおり、複数の審査員による評価の合算が250点以上あるということです。 なお、審査員は5名の予定です。